

各務原市医師会からのメッセージ（令和2年4月7日）

2019年12月に中国の湖北省武漢市で肺炎患者の集団発生が報告されました。それから様々な対策にもかかわらず新型コロナウイルス感染症は世界に拡大し、わずか4か月足らずで世界的大流行（パンデミック）の状態になりました。現在では欧米において大変憂慮すべき状態になっています。

日本国内でも1月16日に初めて患者さんが報告され2月1日に指定感染症に指定されました（指定感染症は症状の有無にかかわらず原則入院治療となりますが、これからは患者数の増加に伴い無症状者、軽症者は自宅や宿泊施設での経過観察になる可能性があります）。

現在日本国内では東京、大阪、愛知など大都市で感染者数が急増し地方都市にも次第にその波が押し寄せています。岐阜県内や各務原市でも報告されるようになりました。また感染経路不明の数も増加し、これからはどこで誰が感染していても不思議ではありません。このウイルスの恐ろしい特徴は無症状の感染者が8割もいるということです。そのため知らない間に感染し大切な家族や友人に移してしまう可能性が高いのです。当初は高齢者の危険性が大きいと報告されていましたが、若年者でも一定の割合で重症化する事もわかってきました。

いま大切なことは自分が既に感染している可能性があると思って行動して欲しいということです。また繰り返し言われているように感染リスクが高まる3つの条件（密閉空間、密集場所、密接場面）が揃う場所を徹底的に回避してください。不要不急の外出を控えてください。手洗い、うがいは徹底してください。

現在、新型コロナウイルス感染症に対する薬やワクチンの開発は急ピッチで進んでいます。また既存の薬の効果がはっきりすれば早期の適応追加が行われる可能性もあります。その時までできる限り感染しないように市民の皆さんが全力で取り組んでいただけることを切に願います。

市民の皆様にお願いです。

発熱、嗅覚障害、味覚障害で病院を受診される際、ご自身で新型コロナウイルス感染症ではないと思われる場合でも受診前に必ず電話にて連絡をお願い致します。他の患者様と接触しない様に調整させていただきます。医療機関側も感染対策を行い患者さん同士で感染しないように気を付けています。

ご存じの通り首都圏では医療崩壊寸前の状態です。医師の新型コロナウイルス感染も大きな問題になってきています。医師は患者さんと向き合い診察するので濃厚接触者となる可能性が高いです。濃厚接触者となった場合は PCR 検査を受けることになり、陽性になれば診療離脱となります。陰性の場合は保健所の消毒、検査を受けて再開の検討になります。

これからは新型コロナウイルス感染症の患者様が来院される可能性は高まり、感染した患者様が来院されることで多くの医療機関が診療継続の危機に立たされます。しかしながら医療現場では本来、新型コロナウイルス感染症以外の疾患が圧倒的多数を占めます。このままでは通常必要とされる診察ができなくなる可能性があります。各務原市医師会員は感染予防の対策をしっかりと行いながら、少しでも多くの患者様の疾患に向き合っていきたいと考えています。

新型コロナウイルスは誰が感染してもおかしくない段階に入っています。興味本位に感染者が訪れた場所や感染者を特定し追及することは風評被害や個人攻撃につながりかねないため慎重、冷静に対処する必要があります。

新型コロナウイルス感染症の終息が少しでも早くできるように我々は日々の診療にあたり、市民の皆様の健康と命を守りたいと切に願っております。この未曾有の難局を乗り越えられるよう皆で頑張りましょう。

各務原市医師会